

“Japanese” が頭につく鳥たち - 2

“Japanese” が頭につく鳥が全部で 18 種類、その内日本固有種が 3 種。あとの 15 種は日本固有種ではないが、かなり「日本」と密接な関係があり、鳥名に“Japanese”が冠せられたと書きましたが、正にその通りで、確立された命名法に基づいている訳ではなく、類似した多くの鳥の中で特に日本的なものに“Japanese”がつけられたようです。

トキ (Japanese Crested Ibis) など、学名 *Nipponia nippon* から考えても純粋に日本固有のものとするは思っていました、中国や朝鮮半島に全く同一種が現に棲息しております。また、マダガスカルトキ (Crested Wood Ibis) という Ibis がいるので、それとの区分を明らかにするため“Japanese”がつけられたのではないのでしょうか。

メジロ (Japanese White-eye) は、世界の鳥の中では 80 種もの“White-eye”という鳥がいるのです。アメリカ、アフリカ、ヨーロッパ、フランス等が頭についており、日本を中心とするものに“Japanese”をつける正当な理由があると思います。

要するに、日本固有種の 3 種 (アオゲラ、セグロセキレイ、カヤクグリ) をバッチリと覚え、あとの 15 種はそれなりに日本に密接な関係があつて“Japanese”がついているんだ、と理解した方が悩まなくて済むのではないのでしょうか。勿論、何故をとことんまで追究するのはまた楽しい勉強でやり甲斐のあることですが、それは限られた人の研究にお任せしましょう。

大宮のハクトウワシ

『しらこぼと』 No. 137、1995年9月号より